自立活動だより（職員）

秋田県立聴覚支援学校
自立活動部
令和６年１月１５日発行
No.３

◇言語発達検査について

言語発達検査やWISC-Ⅳ等の知能検査の実施時期や対照、概要については、「令和５年度　自立活動部からの確認事項」のP２１～２４に記載しています。参考にしてください。

今回は語いや構文という言語発達を見る上で基本となる検査について簡単に紹介します。

＜理解（基本的語い）＞

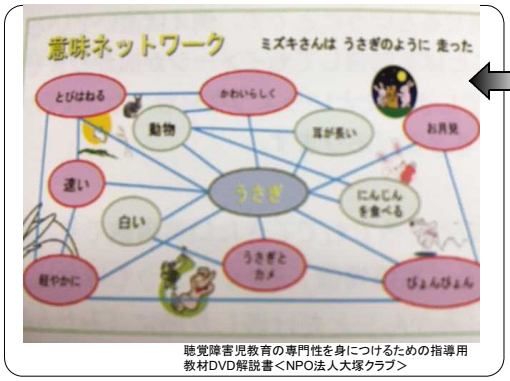
改訂版　絵画語い発達検査（PVT-R）

〇検査方法：音声での問題提示が基本だが、難しい場合は指文字・キュードスピーチ、ひらがな等、音韻的手掛かりによって実施する。提示される語にふさわしい絵を４枚の中から選ぶ。

〇検査からわかること

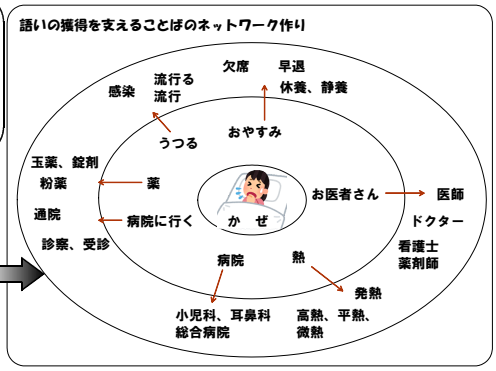
- 語い年齢や評価点（SS）が算出される。
  →実年齢と比較でき、語い力がどの段階にあるかがはっきり分かる。
- 図版は、１～１５まで。後半にいくほど「薄暮」「陰影」「尊ぶ」等のなじみの薄い難しい語で構成される。意味的に近い図版は選択肢に含まれていないため、深い理解に至らずともことばのイメージをつかんでいるだけでも正答しやすい。
  →耳学問の効果。広く様々な語に触れ、理解できているか。
- 図版１から名称だけではなく、上位概念を表す語や動詞等も問われる。名詞だけの理解では正答できない。**→ことばのイメージをどれだけとらえられているか。**
- 「浴室」「入浴」「火災」「医師」等、日常で使うことばを少し難しく言い換えたことばが多い。
  →いつも同じ表現ではなく、場面と合わせながら少し難しいことばを意図的に使っているか。

★ことばのイメージを広げるための例



「うさぎ」にまつわる様々なイメージを広げることで、関連する語いの拡充につながる。

風邪に関連することばを少し難しい表現にかえ、語いを拡充していく。



＜構文の理解と産生＞

失語症構文検査（STA）・新版構文検査ー小児版ー（STC）　＊問題は同じだが順番が違う

〇検査方法：＜理解＞

- 「聴覚的理解」提示された音声に当てはまる絵を図版から選択する。
- 「読解」提示した文字カードに該当する絵を図版から選択する。

＜産生＞

- 提示された図版（課題絵）について
  ①自由発話を促す。
  ②自由発話が困難な場合は、提示された対照絵を説明する文を提示した後で課題絵の文を産生させる。

〇理解レベル＊どのレベルで誤るかによって、どのような構文の理解をしているかがわかる。

レベルⅠ：**文中の単語間の意味的な制約を手がかりとして文を解釈する段階**
→語順や助詞の違いで判断できない。

レベルⅡ：**文の最初に出てきた人物を「動作者」、次に出てきた人物を「動作を受ける人」と解釈する段階**
→助詞を手がかりとして使えない。

例：「女の子が男の子を追いかける」は理解できる。
「男の子を女の子が追いかける」
→語順で「男の子」を動作者、「女の子」を動作を受ける人と解釈するため、
「男の子が女の子を追いかける」と誤った解釈してしまう。

レベルⅢ：**助詞の働きに基づいて補文（受動態の文）を含まない文を理解できる段階**
例：「お母さんを男の子がたたいている」は理解できる。
「お母さんが男の子にたたかれている」
→受動態の構造が理解できないので「お母さん」を動作者と解釈するため、
「お母さんが男の子をたたいている」と誤った解釈をしてしまう。

レベルⅣ：**助詞の働きに基づいて補文（受動態の文）を含む文が理解できる段階**
関係節文：主語を修飾する文と目的語を修飾する文の２つの課題がある。
聴覚障害児は、関係節文を理解する場合、距離的に近い名詞と動詞を結びつけて左から順に単文のように解釈する傾向がある。
例：**「男の子が泣いている女の子にお菓子をあげた」**
→**「男の子が泣いている。女の子にお菓子をあげた」**または、
「男の子が泣いている。女の子がお菓子をあげている」と誤った解釈してしまう。

★理解の実態に基づいて動作化、構造図、絵カード、ペープサート、プリント等による取り上げの学習、自由会話場面、日常生活場面での説明、日記や作文等での構文指導が大切！

◇高等部　合同自立活動（事例紹介）～映像資料の効果的な活用のために～

例年、合同自立活動で職場でのトラブルを想定した内容を取り上げており、職場の状況をイメージしやすいよう、昨年度から映像教材（iMovie）を作成、活用している。昨年6月に実施した「自分の聞こえを説明」では、「聞こえません」だけでは誤解される、誤解されないためには具体的な説明が必要だと実感できるよう、動画の内容を以下のように作成した。

視聴後、志藤さんは何に困っていたのか、その原因は何かを個別で考える時間を設けた。注目してほしい「電話対応」と「突然の連絡」について、全員注目できていた。ただ、志藤さんの行動をそのまま書く生徒もいれば、困っている理由や気持ちを書く生徒もいた。その他にも、映像を手掛かりに志藤さんの聞こえを想像したり、なぜそのような事態になったのかについて自分なりの考えを示したりする人も見られた。一人一人異なる意見を挙げていたが、その後の話し合い活動や発表でそれぞれの考えに触れるようにした。授業後の感想で、自分の聞こえを詳しく紹介する必要性が感じられるような文章が多く見られた。

【映像教材の効果的な活用のために心がけたいこと】
①　何のために何の映像を見せるか（目的の明確化）。　②情報は過不足なく含まれているか。
③　視聴前に、注目ポイントを提示する。　④まず、見たことを自分の言葉で表現する。
⑤　子どもの深い学びにつなげるには、話し合い活動や教師との対話（個別の場合）も不可欠。